

全久院報

松本市深志3-7-50 電話 0263-36-3211

が

今年の上半期は・・・新型コロナ特集号にないそうです

昨年末餅をつき、お鏡を飾り、除夜の鐘を撞き新年を迎えました。いつもどおりの新年が始まったのですが一転して、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう年初となってしまいました。お寺の葬儀や法事は中止・延期・縮小、茶の稽古は中止、宗務所の行事も中止・延期・縮小と、皆様も同様のことと思いますが、中止・延期・縮小・自粛の文字ばかりが並ぶ日々となりました。

「三密を避け自粛しましょう」が氾濫するニュースを聞きながら、自粛って禅そのものなのになあ、禅宗ではいつもしてることなのに、ニュースでは「自粛」は辛そうに響きます。修行僧は厳格に禅を組まなくてははいけません、皆さんは厳格な禅を組む必要はありません。

呼吸を整えながら、自分と向き合うだけです。初めは要領がつかめないと思いますが、自粛に合わせて数をこなしてくると、様々なことに気付いてきます。ノーベル賞を受賞した京都大学の山中教授は「脳がひらめくとは」という特集番組の中で、静かに座り、呼吸を整え、考えが浮かんだらそれを止める、目は伏し目がちにする、その時脳細胞が最も活性化すると述べておられました。これは禅そのものです。今回の「自粛」は静かに座り、脳をひらめかせ、様々なことに気付くチャンス、仏教的な時間に身を置けるチャンスです。

私たちは、三密を避け、自粛し、自己と向き合うという新しい生活スタイルを頂きました。このチャンスを有効利用して、このウィルスと向き合い、ウィルスとの「共生」の時代に、「新しい生活スタイル」を模索して行きたいと思います。ウィルスに伴う変化や情報を掲載しますので、本誌をご一覽いただき、皆様のご意見を頂戴しながら共生の道を求めたいと思います。



お盆参りのお知らせ

お盆のお参りの予定を次の表にしましたのでご覧いただき、ご準備をお願いします。今年は住職との副住職のコースを入れ替えます。

俊浩が松本市の南半分を回り、私が北半分を回ります。毎日80軒前後の軒数を回ります。朝7時半から夕方7時ころまで回ります。事前にお配りする、五色の旗を入れた案内の封筒に記入した期日と時間どおりにお参りがなかった場合は、電話などでお問い合わせください。今年の予定は下記の表のとおりです。

8月	住職の回る範囲	副住職の回る範囲
10日	安曇、明科、麻績など超遠方	安曇、明科、麻績など超遠方
11日	並柳、寿、塩尻、村井、平田、など市外南部	笹部、征矢野、南原、石芝、二子、神林、笹賀
12日	筑摩、神田、惣社、山辺、清水、横田、など市外北部	石芝、高宮、南松本、荒井、新村、波田、岡田、桐、沢村、蟻ヶ崎、城山など

13日	源地、日ノ出町、県、西小松、清水、四谷、女鳥羽、下横田など市内北東部	宮村、埋橋、庄内、東中条、豊田町、南新町、井川城、など市内南部
14日	裏町、片端、下横田、女鳥羽、旭町、元町、横田、美須々、浅間、北深志、沢村、田町、など市内北西部	鎌田、本庄、博労町、天神、宮村、中町、小池町、飯田町、本町、新橋、島内、蛇原、
15日	上土、六九、西堀、城西、宮淵、城山、留守だったお宅、	白板、渚、巾上、伊勢町、国分町、留守だったお宅
16日	留守だったお宅	留守だったお宅

新型コロナウイルス感染症に対応して、お盆が変わります

施食会、棚経（お盆参り）、お塔婆のお渡しの仕方を変えます。本来のやり方と違い、心苦しく存じますがご理解の程よろしくお願いいたします。

施食会 **施食会の日程** 皆様にお配りする施食旗の封筒の説明は例年のものです。今年だけのものではありませんので、こちらの説明に従ってください。

8月5日（水）13時 受付、バザー開始。14時 法要、15時 お塔婆を配ります。
今年、食事、お話し、余興はありません。

参会者は

感染を心配される方はご欠席ください。

参加しても大丈夫という方も、ご無理のないようにお願いします。

衛生管理の徹底をお願いします。マスク着用。高熱・咳の方は参列をお控えください。

本堂の畳、一畳に二人ずつの着座をお願いします。

棚経 お寺は本年も棚経（お盆参り）に参ります。お宅でも感染症に対して三密にならないように、以下の方法にて棚経のご対応をお願いいたします。以下四つの方法が考えられます。

1、棚経にお参り行く日の時間帯に

玄関先へ、盆飾りを出して、お寺が家に上がらずにお参りできるようにする。

2、仏間に仏壇や盆棚に盆飾りをする

寺のお参りに檀家様も**同席する**。

3、仏間に仏壇や盆棚に盆飾りをする

寺のお参りに檀家様は**同席しない**、お布施はお参りの場所周辺の見える場所に置く。

4、お盆参り、今年は断る

以上四つの方法を考慮いただき、4番をご希望の方はお盆の前に電話などでお知らせください。

塔婆の配り方 施食会に参加いただけなかった方で、後日お塔婆を取りに来られる方は

- ・塔婆の棚を玄関の下駄箱前に出しますので、**各自ご自分で探してお持ち帰り**いただく。
- ・お盆費用をお持ちくださり、お支払いいただく場合は、チャイムを鳴らし、寺の者をお呼び出してください。

オンラインで法事をと希望される方へ

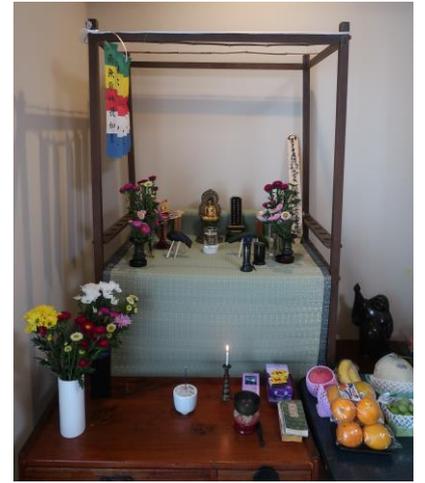
お盆中（8月3～16日）は多忙なためお寺では対応できないと思います。この期間を外してお申し込みください。副住職が対応しますので、電話にて副住職と打ち合わせください。

- ・パソコンかタブレットかスマートフォンをご用意ください。
- ・どちらかのアドレスをお知らせください。

- ・アプリは「zoom」か「LINE」を使用します。
詳細は電話で打ち合わせしながらお進めください。

盆棚の飾り方

お仏壇はご先祖様を祀るばかりでなく、仏様の世界、須弥山（しゅみせん）を表しています。仏教の始まったインドの人々にとっては孤高で白雪を頂くヒマラヤ山脈の峰々は、神聖な場所として信仰の対象となっていました。お釈迦様が説かれた仏さまの住まう須弥山はきっとこのヒマラヤの山々をイメージしたものだったのでしょう。私たちの祖先がお盆の間住まう場所を須弥山に見立てて作られたのが盆棚です。その飾り方はそれぞれの家によってみな違いますので、ご先祖様が代々伝えてきた飾り方を大切にしてください。右の写真は、松本地方で昔から飾られてきた盆棚です。ご先祖様から受け継いだ棚を大切に現在まで継承してくださっているご家庭もあります。また下記に一般的な飾り方を示しますので、飾り方の不明な部分はどうぞ参考にしてください。



1、棚を作る場合（写真参照）

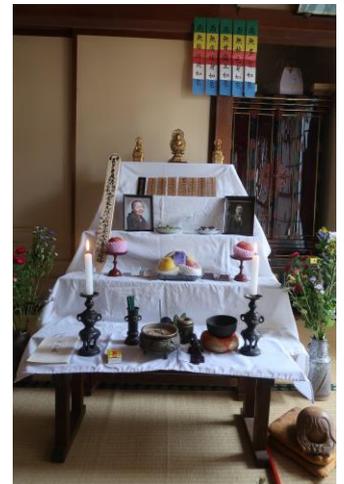
上の段に本尊様、（本尊様は仏壇の中に入れ、盆中は扉を閉じておくというお宅もあります。その家のやり方を尊重してください。）お位牌、塔婆を奉る。お位牌は古い順に、向かって右へ、新しいものは左へお祀りします。2段目には供物をお供えします。お供物には二種類あります。水（お茶）、食（お膳、果物、菓子、嗜好品）などです。3段目に過去帳、花、燭台、線香立て、鐘、マッチや火消しや線香入れなどの道具をおきます。

2、仏壇を使う場合

仏壇は常のとおり祀る。手前に経机や机を出すお宅は机の上に、経机を出さず引き棚を使うお宅はその上に棚の3段目に飾る過去帳や花や鐘などを飾る。その他灯籠や飾り花、いただいた供物などは写真のとおり適所に飾る。

3、またお寺が配る五色の盆旗は、写真のように広げて糸などを通して吊るか、棚に広げておいてください。

初めにも書きましたが、こうでなくてはいけない、ということはありません。先祖様をお迎えするという気持ちをこめて、その家に伝わった仕方で飾っていただくのが大切なことと思います。



新型コロナウイルス感染症に対応して葬儀の仕方が変わります

感染者がお亡くなりになると、感

染予防のために遺族といえども次のような当該自治体の条例に従わねばなりません。タレントの志村けんさんが亡くなられた時、お兄さんが故人の顔も見ることができず、ましてや触ることもできなかった、遺骨になってから初めて会えたと、テレビ画面で訴えておられました。感染症にかかるのとおり**処置の仕方が変わります**ので、いざという時慌てないように、御一覽いただけたらと思います。

1、亡くなってから火葬場までについて

- ・ **納棺** 宗教的な儀式は一切行えません。

亡くなる方は ICU（集中治療室）で治療を受けていると想定されます。亡くなるとその場か近くの部屋で、時間を置かず、納体袋（ウィルスが外に出ないファスナー付きの袋）に収容され、読経なしに納棺されます。収容並びに納棺は防護服を着ている人のみ行なえ、防護服を持たない葬儀業者は行えません。実際には病院関係者のみで行うことになる様です。棺は窓も含め、ウィルスが外に漏れ出ないようにビニールテープで密封されます。県内の多くの葬儀社は防護服を持たない為、棺を運ぶだけと思われる様です。

・**遺族ができること**

遺族は手袋など防護用品を付けていれば、最後のお別れや、遺体への接触もできるようですが、感染のリスクや防護用品の不足を考えると、実際には病院は許可しないのではないかと考えられます。従って病院関係者を通して棺に花束を乗せることくらいしかできないと考えられます。

・**指定感染症**

新型コロナウイルス感染症は一類感染症ではなく、標記の感染症の為 24 時間以内の火葬を強制されません。ですが 24 時間以内の火葬も許可されている為、ウィルスを感染させないために実際は納棺終了後、多くの場合あまり時間を置かずに火葬場に送られるようです。（因みに、霊柩車の運転手も防護服着用の葬儀社もある様です）

・**霊柩車へ**

棺は病院の外に待機している葬儀社の霊柩車に、病院関係者か葬儀業者が運びます。遺族は病院の外で見送ることになると思います。

2、火葬場での対応について（松本市火葬場からの直接情報）

* 現在（4 月 30 日）の時点では、松本市内では感染症で亡くなった方がいらっしゃらないので、確定していない部分もある様です。以下の事項も変わる可能性があります。

・火葬は午後 6 時から 30 分ごとに 1 日最大 5 件可能です。

・**火葬場での待ち受け**は可能です。（東京等では遺族の火葬場の参列は許可されないようです）しかし参列者の人数は、密集を避けるため若干の超過は認められますが、5 人位に制限されます。また、発熱者や濃厚接触者の方等の参列は禁止です。参列者はマスク着用で、用意された消毒液での手指の消毒が求められます。

・**棺の移動は、霊柩車から専用台車へなど**は、感染防御のため手袋（火葬場で用意）の着用が必要ですが、行えます。

・**火葬前の最後のお別れ**は棺が病院で完全密封されているので、感染防止の観点からできません。

・**告別室での火葬法要**は住職の読経による供養、参列者の焼香ができます。茶毘は普段と同様に行える様です。

・**収骨**は炉前のホールにて、参列者により行なうことができます。

* 安曇野市等では参列者の火葬前の棺への接触、火葬の参列、収骨、更には火葬施設内部への入場さえ禁止されている模様です。その時の状況や、自治体によって、対応が相当異なっていますので、各自治体に確認の必要があります。

宗務所長の務め

またまた新型コロナウイルスに関連したお話です。先にも書きました通り、感染症の影響を受けて、葬儀や法事の在り様が激変しました。それにど

う対応するか、宗務所管内ご寺院にアンケートをお願いしました。皆様に関係すると思われる部分をお知らせします。どのお寺様もまずは檀信徒の要望をよく聞いて、対応されています。皆様も要望や意見をお聞かせください、ご意向に沿えるよう対応させていただきます。

お盆などの法要

お寺様や参列者の人数を減らし、三密にならないよう工夫しています。余興や食事も中止し、衛生管理を徹底しています。手洗い・アルコール消毒・マスクの着用・飛沫の拡散を考え、読経の音量を下げ、講演も中止したり、間隔を空ける、などの工夫をしています。

葬儀

お寺様や参列者の人数を減らし、飲食を止め、お弁当を配るなど配慮しています。特に県外の方参列は控えてもらっています。

法事

参列者は家族のみにして、大都市圏の方の参加は自粛してもらう。読経は寺の広間を使い三密にならないよう工夫する。飲食は控え、弁当のお持ち帰りに替えてもらう。また、法事そのものを延期して、感染症が落ち着いたら行う、などご先祖様を大切に作る心や儀式や行事を大切にしながら、状況に応じて延期や縮小を取り入れるなど工夫を凝らしています。

寺院経営

ボランティア活動として、地域の方々と手作りマスクを作る、子供の一時預かりをする、フードバンクへの参加など行なっています。しかし、自粛により経済的な寺院運営が苦境に面していること、文化・伝統・宗教離れが一時的に加速され、そしてそのまま定着してしまわないか、寺離れがそのまま進行しないかという、将来の不安が考えられます。

そこで、寺からの発信を、今までの伝統を大切にしながら、今までとは違う方法を取り入れなくてはならないとして、試行錯誤を始めております。その一つがウェブやネットを使ったオンラインが一つの方法として考えられます。皆様の周りも、社会生活がこの感染症で一変している事と思います。この変化に対応できるよう寺も挑戦を続けてゆきます。

全久院の集い

新型コロナウイルスに対する自粛に伴い、座禅会と御詠歌のみ運営しています。総代会、観音講、うたの会は行うことができませんでした。

座禅会 . . . 「従容録」第63則 趙州問死（じょうしゅう もんし） . . .

この章では唐代の禅の巨匠「趙州」のことば「大死底の人、かえって活する時、如何」に関する問答です。

禅問答では多くのたとえ話が出てきます。まずは「劫石（こうせき）」です。四十立方の石があり、百年ごとに天女が降りて、羽衣でこの石を擦る。石が擦り切れる時間を一劫とするのですが、羽衣は天女を飛ばせる衣。擦り切れるはずがありません。次に「鴻魚（こうぎょ）」です。漢の蔡氏の娘が匈奴に捕らわれ、匈奴の王様の後にさせられた。国や親を偲び、雁の首に手紙を付け、雁が渡った。雁が川に降り水を飲むと、手紙が水に落ちた。その手紙を魚が食べた。漁師がその魚を釣り、市場へ。蔡氏の料理版が買って調理すると、腹から手紙が。蔡氏は娘が匈奴に捕らわれたが、まだ生きていたと分かったという故事です。鴻は大きな雁のことです。中国の故事は無限とも思える時間の流れと、無限とも思える奇跡的な繋がりを感ずります。この無限の時間の流れと、繋がりで、分別（モノを分けて、分析して、言葉にすること）やその結果得られる知識では得られない何かがあると知ります。その分別・知識を徹底的に捨てた境涯、それが「大

死底の人」です。その境涯に至った人同士は智音と智音、言葉や分別なしで繋がりあうことができるということをこの章では説明しています。

私たちの生活にとっての具体的な教えは、「**私が私がという思いを徹底的に捨てる、捨てきったところが死底、死に切ったところ**」です。死に切ったところで「本当の仕事ができ、生き生きとした人生を送ることができる」と青山俊董先生は説明しています。死を見据える眼が深いほど、活かされている生命の尊さに気付くことができます。その眼に気付くには「故人に負けず、一つ、うんと修行するがいい」とお話を結んでおられました。

ご詠歌 新しい会員が二人参加されています。最初に習う「三宝ご和讃」の練習をしております。初めての方大歓迎です。是非ご参加ください。

茶道コーナー

・・・初釜・・・

1月13日（月・成人の日）

毎年恒例の初釜を行いました。全久院の茶道部はお弟子さんの会を「即心会」という名で呼んでいます。現在40名ほど登録されています。この皆さんが一年の稽古始めに集まり、住職と副住職の点てる濃茶と薄茶を味わっていただき、会席料理を賞味してもらうという行事です。



正月初めの茶会ですので、正月にふさわしい飾りつけをします。住職の後ろに金色の風炉先屏風を立てます。その前に紹鷗棚を置きます。利休様の先生武野紹鷗が考案した棚です。室町時代中国から輸入された器を日本風に受け入れて使い始めました。やがて茶道が日本独自のものとして文化を創造し始めました。抹茶をすくう茶杓は中国では薬をすくう道具でした。それを茶道として取り込み、その形を日本の味わいを生かせるように変化させたのが武野紹鷗です。その流れをさらに突き詰めたのが千利休です。その創成期の道具を正月の新たまった設えとして飾ります。日本の文化には長い歴史の中で育まれた深みがあります。まだまだ分からないことだらけで、勉強しなくてはなりません。どこまで行ってもその深さを味わい尽くすことはできません。

今年の会席料理も以前「嵯峨野」という会席料理の店をやっていた武田さんに腕を振るっていただき茶事の形式で行いました。茶事では懐石盆に飯・汁・向付け、酒を入れた銚子と杯、煮物碗（にもものわん）、焼き物、強肴（しいぎかな）、一口吸、八寸、湯次と香の物という順番で、2時間をかけて頂戴します。親方が正月らしい晴れやかな取り合わせで作ってくださいました。いただくお酒のおいしいこと！それぞれにいただく作法があり、その作法に従って食べたり、お酒を頂いたりします。「作法が気になって懐石の深い味わいを感じるどころではない」では、まだまだです。ただ点前を覚えるだけの稽古から一歩踏み出した稽古ができるように、さらにお客様との会話や料理の味を楽しめるような、余裕を持った心で茶事ができるように知識を増やすとともに自分を高めていきたいと思えます。

葬儀や法事に全久院をご利用ください！ ネット派遣僧侶編

ひところ「ネット僧」とマスコミでも取り上げ

られていましたが、大都会の話ではなく、身近なところにネット僧はいますので解説します。現在松本周

辺で事業展開しているのは、イオン系の「ナーム」、互助会系列の「小さなお葬式」、アマゾンから発した「よりそう」の三社です。「ナーム」は中信、「小さなお葬式」は東信、「よりそう」は南信が事業展開の中心となっています。

どの業者も都会に本社があり、地域の葬儀社と提携しています。まず、利用者から本社にネットで依頼が来ます。本社はその地域の業者に葬儀の式場や、行政への届けなどの手配をさせ、契約した僧侶にネットを通じてお参りの内容や日時を指定します。葬儀が終わり、利用者からの料金は本社に支払われ、地域の業者とネット僧に規定の料金が支払われます。

料金は、直葬が15～19万円、一日葬が29～33万円、家族葬が42～50万円くらいとなっています。僧侶への料金がその内から支給されます。登録している僧侶は県内、愛知県、岐阜県、栃木県、山梨県などから松本地域に呼ばれます。ただし葬儀以後の施主との付き合いは禁止されており、四十九日・一周忌などの法事はできません。完全に企業化された営業形態です。

そんなネット僧にもクレームが来ます。地域の寺院からは、檀信徒と寺との絆を寸断して、経済主導の関係のみを結び、本来の宗教を破壊してしまう。時間というメーターで請求される料金が、施主と僧侶の間にあるのみと、指摘します。施主からは、料金を払うだけの簡単な関係で精算できるので、便利ではありますが、果たして便利だけの葬儀でいいのか？と。やはりこの点から利用者は減っているようです。ネット関係の業者もぎりぎりの低料金で葬儀を行うので営業としての会社経営は苦しいようです。

ネット僧が生まれてくる背景も学びながら、全久院も檀家の皆様のお気持ちを大切にして、葬儀や法事を行いますので、本来の宗教的な意味を大切にし、先祖を大切にし、ネット僧に負けないようにしてまいります。全久院での葬儀とお考えの方は、ことの葉（前ヒラバヤシ生花店）（電話32-8722）かメモリアルライフ信州（電話40-7745）の葬儀社をお勧めしています。行政などへの手続きや、花や供物の発注、葬儀の内容や「あとふき」など、みな業者がやってくれます。

葬儀や法事は宗教的な儀式ですから、寺という場所でなければ、その儀式を行う意味が薄れます。また経済的な面も考慮してお寺を使っていたかと思えます。正座をしなくていいようにイスを用意しました。駐車場の確保、など以前よりは便利になってきています。いざという時に慌てぬよう、自分の葬儀の仕方を住職と相談しておくことをお勧めします。

大黒コーナー … オペラ 椿姫… 延期

オペラを楽しむ会 第10回記念
公演、豪華絢爛で、甘く情熱的なメロ

ディー満載の純愛悲恋ものということで、古今のオペラの代名詞のようになっている超人気作、ベルディ作曲 オペラ『椿姫』（イタリア原語上演字幕付き）の公演を5月3日（日）14時～16時、まつもと市民芸術館主ホールにて行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、来年4月18日（日）14時からに延期されました。詳細は来年の1月号でお伝えします。今回購入いただいたチケットはそのまま来年の公演で使えますので、大切に保管ください。不明な点がございましたら全久院までお問い合わせください。

掲示板（皆様のご参加お待ちしております）

～施食会～

8月5日（水）13時より受付開始、恒例になりましたバザーを行います。なお新型コロナウイルス感染症に対処して、お弁当、講演、余興は中止します。14時より法要、15時よりお塔婆

を配ります。バザーはタオル・シーツ・ふとん・食器・石鹸などたくさんの品があります。持ち帰るのに便利な風呂敷や紙袋など持ち寄ってお越してください。良い品がたくさんありますので是非ご協力ください。

．．． 掃除の会 ．．．

7月26日（日）14時から、窓ふきのみをしていただきます。三密を避けるためマスクをしていただきます。終ってからの懇親会はお弁当をお配りし、残られる方のみ飲食を共にしたいと思います。参加希望の方は電話などでお申し込みください。

．．． 座禅会 ．．．

9月19日（土）・10月17日（土）・11月21日（土）・12月19日（土）お粥と精進料理。
以上が下半期の日程です。毎回夕方4時集合、4時40分まで青山俊董師の市民タイムスのコラム「従容録」を住職が解説し、5時45分頃まで座禅、6時まで茶話会という予定で行います。三密を避ける、そのものの座禅です。ぜひご参加ください。

．．． ご詠歌会 ．．．

9月9日（水）・10月14日（水）・11月11日（水）・12月9日（水）
午前10時半より12時まで、白板 東昌寺住職 飯島恵道師にご指導いただきます。一緒にいかがですか。ご希望の方はぜひご連絡ください。

．．． 観音講 ．．．

毎月17日10時から12時半まで行います。ただし、10月16日（金）は奈川の「仙洛」への小旅行の予定です。恒例の観音講の内容は10時から観音様にお勤め、10時20分からご詠歌、10時50分から大黒の指導で唱歌の合唱11時20分より食事という日程です。現在15人ほどの参加者があります。気寄りが良く60代から80代の方が元気に集まってきます。気楽な会ですのでぜひご参加ください。

．．． 歌の会 ．．．

9月2日（水）・9月16日（水）・9月30日（水）・10月7日（水）・10月21日（水）
11月4日（水）・11月18日（水）・12月2日（水）・12月16日（水）
午前10時より12時まで、お茶休憩をはさみ大黒が指導します。発声練習をして、唱歌、童謡、懐かしい曲など一緒にいかがですか。また、ハーモニーを付ける曲もあります。他の催しへの参加なども企画しています。音楽を通した楽しい友達もできますよ。お待ちしております。

．．． 全久院ホームページ ．．．

<https://zenkyuin.or.jp/>

全久院ではホームページオを開設しています。「全久院報」をネットで見ただけのようにしてあります。管理をしてくれている檀家の丸山耕一さんと親しみやすいものにしてゆきたいと思えます。また、皆様と意見や情報を交換できる場に育てて生きたいと思えます。ぜひ一度開いて見てご意見ください。